

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104738
法人名	有限会社 ころろ
事業所名	グループホーム 里山
所在地	愛媛県松山市鷹子町乙402-9
自己評価作成日	平成26年9月4日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年9月26日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「笑顔と感謝と優しい言葉」をモットーに自分自身を磨いている。</li> <li>・小・中学校・幼稚園との交流をしている。</li> <li>・ボランティアによるギター・オカリナ演奏、絵葉書教室を開催している。</li> <li>・利用者の好みをメニューに反映させ、美味しく作っている。また、おやつは手作りを心掛けている。</li> <li>・景色が良く、近くに公園があり、地域の行事が良く行われている。</li> </ul>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は「まもるくんの家」に登録しており、小学生が学習の一環で近くの公園に来た際には、立ち寄ってくれている。公園で行われる地域の盆踊りには、毎年、事業所でヨーヨー釣りの出店を催し、利用者が売り子になる等して地域交流されている。歌や三味線、バイオリン演奏の地域ボランティアの方が来てくれる際には、利用者とおしゃべりして過ごせるような時間を作っておられる。</p> <p>普段は近くの公園に出かけたり、玄関先でひなたぼっこ等できるよう支援されている。個々に、帰宅や墓参りの希望もあり、ご家族と日時の調整を行い、希望に沿えるよう支援されている。職員、利用者ともに「全員で出かけたがたい」思いがあり、年2回は、全員で買い物や食事に出かける機会を作っておられる。ショッピングモールのフードコートやバイキングに出かけると、いつも小食な利用者も食欲が増すようだ。</p>
---

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム 里山

(ユニット名) 虹

記入者(管理者)

氏名 竹本 亜矢

評価完了日

2014年9月4日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を毎朝の朝礼時に全員で暗唱し、理念を生かしたケアが出来るように心がけている。	
			(外部評価) 理念は、「明るく健康で、心豊かなその人らしい生活が出来る安らぎのある暮らしを支えます」と作っておられる。社訓「笑顔と感謝と優しい言葉」は、朝礼やミーティングで唱和されている。法人代表者は、「勤務前に職員は笑顔を確認してほしい」とスタッフルームに鏡を設置された。施設長は「職員の笑顔が増え、エプロンの紐の捻じれや身だしなみに変化が見られ、職業人としての意識が高まっている」と、感じておられた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内の行事に参加したり、ボランティアの方に来て頂き、ギター・オカリナ演奏会や、絵葉書教室が開催されている。また、運営推進会議には、町内会長・老人クラブ・小学校校長の参加もあり、地域に貢献出来る様関わると共に、地域との交流のアドバイスを受けている。	
			(外部評価) 事業所は「まもるくんの家」に登録しており、小学生が学習の一環で近くの公園に来た際には、立ち寄ってくれている。公園で行われる地域の盆踊りには、毎年、事業所でヨーヨー釣りの出店を催し、利用者が売り子になる等して地域交流されている。歌や三味線、バイオリン演奏の地域ボランティアの方が来てくれる際には、利用者とおしゃべりして過ごせるような時間を作っておられる。施設長は、利用者の重度化を考慮して、「地域の方に来ていただきやすい事業所にしていきたい」と話しておられた。お隣にあるアパートの住人は、利用者が外で過ごされる時には気にかけて見てくれており、連絡等をくれることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で、認知症について発表したり、包括支援センター等から依頼があれば、小学校や公民館で認知症の勉強会開催の協力を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 出席者からの助言を里山の行事や外出、レクリエーション等に活用している。	
			(外部評価) 会議時、「地域との連携」について意見交換を行った際には、町内会長から「歌や紙芝居をするボランティアの訪問部隊を町内会で作ろうと思う」という発言もあった。又、小学校長からは、「子ども達に福祉の目を根付かせたい。実際に交流することが一番」というお話があった。又、災害対策の話し合い時には、地域のグループホームとの協力関係作りや、避難後の重度化利用者のケア等についても意見交換された。事業所の外出行事に民生委員の方も付き添ってくださることもある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 困った事例や、不安・疑問点があれば連絡を取り、相談・報告し、改善・解決に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議時、市の担当者の方から国の高齢化対策の説明があったり、感染症対策等について情報提供や注意喚起等もある。会議時の小学校との交流の報告がきっかけで、小学校と地域包括支援センターとの関係づくりの橋渡しをされたこともある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施錠は昼間はかけることはせず、夜勤のみとしている。安全の為に、出入りにチャイムを設置している。 認知症の悪化に伴い、危険行動のある方で、精神面でも不安定な方にのみ、危険な場合にだけ、ご家族の許可を得て、安全ベルトを装着させてもらっている。	
			(外部評価) ひとりで出かけて行かれる利用者には、ご本人が納得するまで職員と一緒に歩いており、疲れ具合等をみながら車で迎えに来てもらう等して対応されている。車椅子から立ち上がろうとして転倒する心配がある方には、安全ベルトを着用する時間もあるが、職員が横で支えられる場合は、ベルトを外して、立つことができる時間を作り、毎週、ご家族、職員で支援の評価を行っておられる。「帰りたい」気持ちの強い利用者には、昼間は職員が見守り、夜間は20分置きに居場所を確認することを申し合わせて支援されている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフが意識を持ち、ホーム内での虐待が無い様ケアするために、勉強会を開いたり、施設外の研修に参加し、参加したスタッフがミーティング時に発表すると共に、常日頃から言葉使いや態度に気を付け、ケアしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加したり、里山での勉強会で学び、スタッフで話し合っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 解りやすい言葉で、項目ごとに理解されているか確認し、不明な点はないかお聞きしながら説明し、理解してもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に設置している意見箱に投書出来る事を伝えたり、意見や要望を面会時や運営推進会議でお聞きしている。また、何かあればホームに電話して下さるようお伝えしている。ご家族からの要望や意見はスタッフに伝え、今後のケアに活かしている。また、必要であれば包括支援センターや、市役所・社会福祉協議会に相談に乗ってもらう事もある。 (外部評価) ご家族には、「里山通信」を年4回送付されている。利用者個別の冊子になっており、コメント入りの写真に利用者の様子、スタッフ紹介、伝言等が掲載されている。ご家族からは「元気そうな様子がわかった」「親戚や近所の人に見せている」等、感想を話してくれる方もあり、便りを楽しみにしている方が多いようだ。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のスタッフミーティングや各階にリーダーを設け、意見や提案が出来やすい環境を作っている。 年に2回、社長との面接の機会もあり、不満や希望を言える。 それらの意見を代表者、管理者は真摯に受け止め、スタッフの仕事がしやすいよう、処遇改善に努めている。	
			(外部評価) 年間研修計画に沿って月1回事業所内で「学習会」を行っておられ、職員が交代で担当して資料を集めて発表されている。又、外部研修を受講した職員は、研修内容を報告してすべての職員で共有できるよう取り組まれている。施設長は、「職員間の情報共有がうまくできていない」と感じておりケアの統一性を図るために「チェック表」を作っておられる。職員は「利用者の楽しいを大切にしたい」、「地域の方が気軽に来られるよう工夫を提案したい」と、話しておられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 面談を定期的に行い、スタッフの意見や提案、希望や課題に意見を傾け、就業環境の改善に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会へ参加し、レベルアップに努めている。 ヘルパー2級研修や、介護福祉士、ケアマネジャーの資格を取れる事を説明し、希望のあるスタッフには協力している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 夏祭り等の行事の際に、他のグループホームに対し、駐車場を提供したり、交流を図っている。また、包括支援センターで開催されるGH交流会や、各研修会で知り合う機会を持ち、それぞれのグループホームの良い点等を持ち帰り、サービス向上に繋げている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に本人とご家族に見学に来てもらい、入所者やスタッフと談話をして頂き、入所前にホームの雰囲気を感じて頂いている。入居後は、頻回な訪室や話しかけ、他の利用者との交流を図るよう関わったり、不安や心配がないかお聞きし、安心した生活が出来る様関わっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	入所前に本人とご家族に見学して頂き、雰囲気等を分って頂いた上で話し合いを行い、入所して頂くか否かを決めて頂いている。入所当初は不安な事や要望が話しやすい雰囲気であるように努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	サマリー等を理解した上で関わりを持ち、本人の希望をお聞きし、それに沿った支援計画を作成している。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	各入居者のレベルに合わせて、食器洗い、洗濯物たたみ、花の水やり等出来る事をスタッフと一緒に見守りながら行っている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	ふれあい通信を発行し入居状態を報告したり、行事などの際に参加して頂く事で関わりを持って頂いている。また、個別に希望があれば、ご家族に手紙を書いたり、電話で近況をお話しし面会を促したり、利用者のニーズを話している。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	友人との面会時に写真を撮って部屋に飾ったり、年賀状や絵手紙を出したり、声が聴きたいとの希望があれば、電話をおかけしている。ホームへの行事にお誘いする事もあるが、ご高齢で参加された事はない。
			(外部評価)	
				利用者の友人が遊びに来られた時には、一緒に写真を撮って、次回の来訪時にプレゼントされている。利用者自筆の手紙をご家族にお送りした際には、「字を書くのは無理だと思っていました。上手に書けていました」と喜ばれたようだ。「いつも来る友達が最近来ない」と心配する利用者には、電話を掛けてみる等して利用者が納得いくような支援に努めておられる。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーション等に参加して頂き、利用者同士が関わりを持てるよう努めている。日々の食事やお話しの場においても、隣席の利用者にも声掛けしながら利用者の橋渡しに努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 電話や訪問で相談等があった際は応じている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の話に傾聴し、本人の希望等を把握するよう努めている。個人的に他県への旅行や、墓参りの希望等があるが、スタッフで対応出来ない時は他のサービスを説明したり、ご家族に本人の希望・要望を伝えている。急に買い物に行きたい。何かをしたい等のケースであれば出来る限り対応している。 (外部評価)	
			日々の介護記録「介護支援記録」等に、利用者の言葉やご家族の要望等を記録されている。	利用者の重度化等もあり、支援のあり方等を模索しているところである。今後さらに、利用者主体の支援を実践していくためにも、利用者一人ひとりの暮らしの希望についての情報蓄積に力を入れて取り組み、「その人らしい生活」の支援につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) その人のアルバムを見ながら会話をしたり、その人のこれまでの生活や思いを知るよう話をしている。また、ご家族からも今までの生活ぶりや性格等をお聞きし、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日中の活動状況を記録し、精神面や言動、行動から出来る事を見つけ、家事や絵クリエーションに力を発揮出来るよう努め、個々のケアプランに反映している。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ご家族の希望や家で出来ていた事・されていた事が、ホームでも継続出来るか、スタッフ間で話し合い、アイデアや意見を取り入れ計画を立てている。</p> <p>(外部評価) 介護計画の支援内容を具体的に表した「援助計画実施表」に、毎日担当職員が○・△・▽・×の記号で評価を行うようになっている。それをもとに、担当職員、管理者、ケアマネジャー、介護計画作成者が毎月モニタリングを行っている。ご家族から「介護計画表だけではどんな介護をしているかわからない」と意見があったことがきっかけで「援助計画実施表」の様式を作るようになった経緯があり、ご家族からは「わかりやすくなった」と感想があるようだ。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 月に一回全体ミーティングを行い意見交換をし、介護計画を見直している。 また、日々気付いた点は記録・申し送りをし、スタッフで共有し、実践している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日々のケアや会話の中から利用者やご家族の不安や困った事を気付き、その人にあった解決策をスタッフで話し合い、対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 高齢クラブ、ボランティア、行政の協力を得て、いろいろな行事やレクリエーションを行っている。 また、外部からの要請があれば、出来る限り協力している。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 主治医は、ホームの協力病院を伝え、ご家族の同意を頂き決めている。定期的な往診以外においても、必要時は受診や往診がスムーズに行えるよう、病状や異常等をわかりやすく報告し、必要時は専門医や救急病院への受診が出来る様24時間連携している。	
			(外部評価) 入居時に、利用者は、2つの協力医から主治医を決めており、定期的な往診を受けている。夜間の急な発熱等、体調変化があった場合は主治医に連絡して指示を仰ぎ、対応されている。必要時には、夜間も往診が可能である。歯科は訪問診療を受ける方が多い。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) スタッフが異常を発見したら看護職員に知らせ、必要時は主治医に報告している。 訪問看護利用時は、利用者の状態を適格に報告し、不安な事は相談にも乗ってもらっている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院中も病院やご家族と連絡を取り合い、退院時は退院後の注意等の指導を受けている。 入院時はサマリーを作成し、日常生活上の注意点がエアかるようにしている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナルケアの在り方について、早い段階からご家族と話し合いを行い、当施設で出来る事を十分に説明しながら方針を共有し、主治医や訪問看護師たちと共に、チームで支援している。	
			(外部評価) 職員は、事業所内の学習会で看取りについて勉強したり、看取り支援の経験を重ねることで不安軽減につながっているようだ。現在、9割の利用者が事業所での看取り支援を希望されている。入居時、及び、状態変化時等には、医師を含めた三者面談で方針等について話し合われている。医師から終末期の診断を受けた場合は、かかわりを多く持つように、皆が集う居間の近くの居室に移動してもらっている。ご家族と疎遠の利用者があったが、病状等を何度も連絡することで、じょじょにご家族の来訪があるようになり、看取りにも立ち会われて「良くしてもらってありがとう」と感想をいただいた。 施設長は、ケアマネジャーと外部研修等に参加しながら、重度化への対応やケアの方向性を模索しているところである。利用者個々が最期までその人らしく暮らせるような支援に向けて、ご家族と協力し合って取り組みをすすめていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時用のマニュアルを作成したり、救命救急の講習等を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防署員の指導の下、地域住民にも参加してもらい、火災・地震の避難訓練を行っている。 今後は、運営推進会議で指摘のあった、協力して頂ける地域住民の緊急連絡網の作成も検討していきたい。	
			(外部評価) 夜間の火災想定での避難訓練も実施されている。地域の参加もあり、避難後の利用者の見守りをお願いされたが、「何をすればいいのか」と質問等があった。「町内の方が避難してきたら1日は助けて欲しい」と町内会長から依頼があり、町内会長と一緒に備蓄についても考えているところである。消防署の協力を得て、事業所にて救命救急の研修を行っておられる。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人と関わりを持ち、言葉使いに気を付け、相手の気持ちを考えながら言葉かけを行っている。 また、入浴・排泄等のケア時は、窓やドアを閉め、不愉快な思いをさせないように、心がけている。	
			(外部評価) 普段は、ご自分からは絵を描こうとしない利用者も、絵手紙の先生の手本を見ながらと絵を描いたというエピソードがあり、職員は、今後さらに「その人らしさをもっと引き出して、意欲や自信につながるよう支援していきたい」と話しておられた。言葉をうまく話せない利用者にも、可能性を探りながら、さらに思いや意向を汲み取っていかれてほしい。調査訪問時、職員は利用者の耳元でトイレ誘導の声かけをされていた。	ケアマネジャーは、「職員、利用者とも長年の関係で馴れ合いを感じることもある」と話しておられた。職員の利用者への対応や言葉かけは、ケアの質にも大きくかかわることもある。言葉遣いや声の大きさ、トーン等については個々に点検したり、又、ご家族や第三者からの感想等もうかがいながら取り組みをすすめていかれてほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者とのケア上において、何でも言って頂けるような環境を作り、話し合っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	本人の希望を出来るだけ優先し、ケアをしていくように心が けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価)	ボランティアによる定期的な散髪を実施している。 美容室でのカットを希望される人は、付き添い美容室に行っ ている。 洋服選びは本人の希望に合わせている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	利用者によって普通食・キザミ食・ミキサー食等、本人の嚥 下能力にあった食事をお出ししている。 食材のカットや盛り付け、テーブル拭き等の食事の準備や、 食器洗い等の後片付け等、出来る事は一緒に行っている。	
			(外部評価)		
				利用者に希望を聞きながら事務長が献立を立てており、事 業所の菜園で採れた野菜等も使用して食事を作っておられ る。調査訪問時、利用者はテーブル拭きや食器の片付け、 皿洗いをされていた。食事中は、利用者が入居前に楽しん だ旅行の話や卓上に飾っているお花等の話題が弾んでい た。誕生会には、利用者の希望の料理や手作りケーキでお 祝いし、利用者に喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価)	1人1人に合った食事形態や食事量、水分量確保のため、 出来る限り好みの飲食物を提供している。 摂取量が低下している利用者は主治医に報告し、エンシュ ア等を処方してもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価)	義歯は、就寝前に外してもらい、義歯洗浄剤につけている。 食後、出来る人は各人で、出来ない人にはセッティングし、 寝たきりの方には、スポンジブラシや口腔ティッシュ等、口腔 ケア用品で綺麗にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>排泄パターンを観察し、その人に合ったトイレ誘導を行い、なるべく尿、便失禁の無い様になっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>「居室にポータブルトイレがあると安心する」と言う利用者も、ポータブルトイレを使わずご自分でトイレまで行かれることもあり、職員は見守ったり声を掛けたりしながら、安全にトイレに行けるよう支援されている。おむつを使用する利用者には、入浴前にトイレに座る支援を重ねられて、現在は入浴前はトイレで排泄することが習慣になった方もいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>乳製品や牛乳を用いたり、繊維の多い食品を献立に取り入れたり、廊下歩行をしてもらい、運動不足解消をもらっている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>3日に1回のペースで入浴を行っているが、これに限らず、便失禁、散髪後、病院受診日前日、入浴希望があった日等、状況に応じ実行している。 入浴時間は、利用者に何時頃に入浴するか希望を聞いている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>お気に入りのシャンプー、リンス等を使用している利用者がある。夏場は、希望によりシャワー浴の場合もあるが、寒い季節には、ほぼ全員の方が湯船で温まれるよう支援されている。入浴を嫌がる利用者には、「一番風呂に行きませんか」等と声かけて支援に努めておられる。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>リビングに来られていても、食事以外ほとんど傾眠状態の利用者の方は、居室で臥床して頂いている。ご自分で休憩できる方は自由に居室に戻られ休まれている。 入所前の生活をお聞きし、昼寝をしていた方は昼寝を進めている。</p>	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 理解できていない事があればカルテにはさんである服薬表を確認している。薬は飲み忘れの無いようチェック表を作成し活用している。 臨時薬は服用後の症状の変化を観察し、記録している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食器洗い、花の水やり、洗濯たたみ等、本人が進んでされ、出来る事の楽しさや嬉しさが味わえるよう、援助している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 年に1~2回であるが、食事や買い物を時間をかけて楽しんでいる。 希望があれば、日々の生活の中でも外食や買い物の支援を行っている。	
			(外部評価) 普段は近くの公園に出かけたり、玄関先でひなたぼっこ等できるよう支援されている。個々に、帰宅や墓参りの希望もあり、ご家族と日時の調整を行い、希望に沿えるよう支援されている。職員、利用者ともに「全員で出かけた」思いがあり、年2回は、全員で買い物や食事に出かける機会を作っておられる。ショッピングモールのフードコートやバイキングに出かけると、いつも小食な利用者も食欲が増すようだ。入居して長い方が多く、以前は歩行していた方も車椅子を使用するようになり、仲の良い利用者の方に、杖を持つよう勧め一緒に出かけようとするような様子も見られるようだ。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出し、買い物が出来る利用者の方は、ある程度ご自分で持たれているが、金額等は把握している。 買ってほしい品があれば、スタッフが希望の商品を購入してきている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 毎年、暑中見舞いや年賀状をお出ししている。 ご家族やご友人、親戚の方への電話や手紙のやり取りは特別事情が無い限りは支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>各居室の入口にご自分の写真と名前を掲げ、自分の部屋だとわかりやすくしている。また、利用者の作品を飾り、みんなで見て楽しんでいる。 トイレは、臭いや汚れが無いよう常にスタッフが確認している。西側のドアからの西日を遮る為に、寒冷紗を用いている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間には、敬老会の写真、塗り絵の得意な利用者の作品、地域の小学生からのメッセージカード等が掲示されていた。訪問調査日、利用者が庭からお花を摘んで来て活けておられた。昼食後利用者は、職員と会話を楽しんだり、利用者同士でおしゃべりしながら過ごされていた。玄関先のプラントの水やりをする利用者がおられる。居間や廊下の掃除は職員が行っている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>畳の場所やテーブルの席に移動し、自由に行き来し会話やレクリエーション、テレビ等を楽しむ事が出来る様にしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族との写真やご家族から贈られた手紙等を見やすいように壁に掲示している。 利用者の使い勝手に合わせて、物を配置している。 担当スタッフは利用者の部屋を季節毎に整理している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室の入口には、利用者の顔写真を貼っていたり、目印になるようぬいぐるみを付けているところもあった。利用者が以前作ったショーケース入りの人形を飾っていたり、長寿のお祝いの表彰状や家族写真が飾られていた。ぜんそくのある方には、空気清浄機が用意されてあった。枕元に、いつでも読めるよう新聞や本を置いている方もある。居室は、全室南向きで日当たり良いが、夏場等は日差しが差し込むため、職員が居室の室温計を確認しながら、エアコンで温度調節されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の状態に応じて、スタッフの目の届く場所への部屋移動を行っている。 廊下の手すりは自主訓練時に活用したり、歩行時に使用している。 居室が解らない利用者には、ぬいぐるみ等の目印を置いて解りやすくしている。</p>	